

第二目 戰鬪掃海規程(附)研究項目

大正十年戰鬪掃海實施規程(摘要)(同年內令
第百二十七號)

第一章 總 則

- 一、本規程ハ大正十年戰鬪掃海實施ニ關スル事項ヲ規定ス
 - 二、本掃海ハ大正十年九月末日迄ニ防備隊(臨時防備隊)及鎮守府、要港部附屬ノ在役第一豫備驅逐隊之ヲ施行スルモノトス
但シ第八驅逐隊ノ外練習ノ任務ニアルモノヲ除ク
 - 三、本掃海ニ在リテハ其ノ實施ノ監視、成績ノ審査及研究資料ヲ得ル目的ヲ以テ左記委員ヲ配スルヲ例トス
(一)運動監視委員 (二)運轉監視委員 (三)掃海具取扱監視委員 (四)既掃海面及設標其ノ他成績調査委員
 - 四、本掃海ニ關スル實施標準ハ海軍教育本部長之ヲ指示ス
 - 五、本掃海ノ成績ハ所屬長官ノ進達セル諸報告ニ基キ海軍教育本部長之ヲ審査決定ス
- 第二章 防備隊 戰鬪 掃海
- 六、本掃海ハ左記一般想定ニ基キ施行スルモノトス
- 一 一般想定
- 所定掃海水道掃海ノ任務ヲ有スル防備隊ハ令ニ依リ該水道ヲ清掃セントス

七、左記諸號ハ所屬長官之ヲ定メ特別想定及制令トシテ掃海施行前適當ノ時機ニ當該基本長及委員ニ交付スルモノトス

(一)掃海面 (二)使用スベキ艦艇 (三)發動時機

八、本掃海ニ對スル主ナル研究項目左ノ如シ

(一)味方港灣掃海水道ノ掃海法 (二)掃海隊ノ編制及各艦ノ任務

九、基本長ハ所定ノ部署ニ依リ掃海ヲ實施スルモノトス

第三章 驅逐隊戰鬪掃海

十、本掃海ハ左記一般想定ニ基キ施行スルモノトス

一般想定

驅逐隊ハ艦隊ノ來着ニ先チ速ニ所要海面ヲ精掃セムトス

十一、左記諸號ハ所屬長官之ヲ特別想定及制令トシテ定メ封密書トシテ當日當該基本長及委員ニ交付スルモノトス

(一)掃海面 (二)發動ノ時機

十二、本掃海ニ對スル主ナル研究項目左ノ如シ

(一)一個驅逐隊ヲ以テスル所要海面ノ掃海法 (二)掃海隊ノ編制及各艦ノ任務

十三、基本長ハ所定ノ編制ニ據リ掃海ヲ實施スルモノトス

爾後毎年度改變ノ要領左ノ如シ

大正十一年

- 一、掃海區域ヲ擴大スルト共ニ驅逐隊ニ對シテハ掃海水道ト掃海面トヨリ成ル變形ノ掃海區域ヲ規定ス
- 二、故障想定ハ當局ヨリ指示シ主要研究項目ニ對スル研究目的ヲ達成セシム
- 三、採點標準ノ精細ヲ期シ教育本部ニ於ケル再審査ヲ行ハザルコトトス

大 正 十 四 年	大 正 十 三 年	大 正 二 十 年
<p>四、水雷戦隊戦闘掃海 訓練狀況ニ鑑ミ概ネ前年度ト同要領ニ依リ實施セシムルコトトセリ</p> <p>三、驅逐隊掃海隊夜間戦闘掃海 十三度實施ニ鑑ミ訓練研究項目ヲ適確ニ記載シ陸兵揚陸作戦ニ於ケル輸送船隊ニ對スル夜間前路掃海ヲ實施セシムルコトトセリ</p> <p>但シ大掃海具三號ノミヲ搭載スルモノニ在リテハ掃海具ノ性能上夜間掃海ノ實施ハ尙研究ヲ要スルモノアルニ付施行セシメザルコトトセリ</p> <p>二、驅逐隊掃海隊晝間戦闘掃海 (イ) 大掃海具三號ノミヲ搭載スル驅逐隊掃海隊 大掃海具三號ノ略掃法竝ニ其ノ能力及敷設線ノ判知ヲ主トシ訓練研究セシムルコトトセリ (ロ) 右以外ノ驅逐隊、掃海隊 從來淺海掃海ニ對スル研究ノ必要ヲ認メラレツツアルニ拘ラズ研究十分ナラザリシニ鑑ミ淺海掃海ニ適スル現用掃海具ノ組合使用法ヲ主トシテ訓練研究セシムルコトトセリ</p> <p>一、防備隊戦闘掃海 (イ) 掃海水道ノ日施掃海ハ一層戦時ノ狀況ニ近邇セシムル爲水道指示ノ航路浮標ハ豫メ設置セシメ置キ且設標ハ一側ニ制限シ實施セシムルコトトセリ (ロ) 實裝浮出機雷(一個)ニ對スル爆破處分ヲ行ハシムルコトトセリ</p>	<p>三、水雷戦隊戦闘掃海ニ關スル規定ヲ加ヘタリ</p> <p>二、鎮守府要港部所屬驅逐隊及掃海隊ニ對シテハ從來實施シ來リシ晝間掃海ノ外夜間掃海ヲ併セ課スルコトトセリ</p> <p>一、探點標準ヲ廢シ成績審査ニ必要ナル事項ノミヲ指示スルニ止メタリ</p>	<p>本戦技實施ニ關スル指導ハ成ルベク所屬長官ノ裁量ニ一任セシムル趣旨ヲ以テ規定ノ條文ヲ簡單トセル外大體ニ於テ昨年度ニ同ジ</p>

昭和二年	大正十五年
<p>一、爆薬ヲ以テスル實裝機雷處分法ハ概ネ成案ヲ得タルヲ以テ研究項目ヨリ除クコトトセリ</p> <p>二、防備隊戰鬪掃海</p> <p>(イ) 掃海訓練ノ練度向上ニ鑑ミ掃海水道ノ夜間掃海ヲ課スルコトトセリ</p> <p>三、驅逐隊晝間戰鬪掃海</p> <p>(イ) 従來浮流機雷ノ處分ハ擬施ニ止マリ處分艦ノ隻數占位等ニ關スル研究不徹底ナリシヲ以テ本年ハ浮流機雷全部ヲ統擧處分スルコトトセリ</p> <p>(ロ) 大掃海具三號ハ清掃具トシテノ價值不充ナルヲ以テ本年度ハ特ニ掃海確度ノ研究項目ヲ加ヘタリ</p> <p>四、驅逐隊掃海隊夜間戰鬪掃海</p> <p>(イ) 輸送船隊ニ對スル前路掃海ハ略前年同様ナルモ哨戒部隊及掩護部隊ヲ配シ可成實戰的ニ指導スルコトトセリ</p> <p>(ロ) 夜間泊地掃海ハ其ノ必要ニ鑑ミ本年度ヨリ實施スルコトトセリ</p> <p>五、水雷戰隊戰鬪掃海</p> <p>(イ) 泊地掃海ハ尙演練ノ要アルヲ以テ前年同様施行スルコトトセリ</p>	<p>一、防備隊戰鬪掃海ハ當該鎮守府所屬掃海隊ト聯合シ掃海水道ノ日施掃海ヲ行フ</p> <p>二、鎮守府要港部所屬在役驅逐隊晝間戰鬪掃海ハ十四年度ヨリハ一層回頭面狹小ニシテ水深淺キ泊地ノ清掃ヲ行フ</p> <p>三、(イ) 掃海隊晝間戰鬪掃海ハ前項ニ同ジ</p> <p>(ロ) 鎮守府所屬掃海隊ハ右ノ外當該防備隊ト聯合シ掃海水道ノ日施掃海ヲ行フ</p> <p>(ニ) 第一掃海隊ハ(イ)ノ外第一水雷戰隊ト聯合シ泊地掃海ヲ行フ</p> <p>四、驅逐隊、掃海隊ノ夜間戰鬪掃海ハ大體ニ於テ十四年度ニ同ジ</p> <p>五、(イ) 水雷戰隊戰鬪掃海ハ十四年度ト同ジ</p> <p>(ロ) 第二水雷戰隊戰鬪掃海ニハ第一掃海隊聯合參加ス</p> <p>六、各晝間戰鬪掃海ニハ全部實裝機雷ノ處分ヲ課ス</p> <p>七、泊地ノ清掃ニハ淺海掃海ヲ課ス</p>

大	昭和四年	昭和三年
<p>一、防備隊戰闘掃海(各防備隊)</p> <p>(一) 味方港灣掃海水道ノ掃海法</p>	<p>(丙) 浮流機雷銃撃處分ニ就テハ驅逐隊晝間戰闘掃海ノ部ニ於テ述ベタルガ如シ</p> <p>防備隊戰闘掃海</p> <p>一、掃海水道ノ夜間掃海ヲ課スルコト前年同様ナルモ「現地」ナル制限ヲ止メ可成潮流強キ海面ニ於ケル研究ヲ行フ</p> <p>驅逐隊掃海隊晝間戰闘掃海</p> <p>一、練度向上ニヨリ無設標掃海ニ進メタリ</p> <p>二、三號掃海具ニ依ル掃海確度ノ研究ヲ續行ス</p> <p>驅逐隊掃海隊夜間戰闘掃海</p> <p>一、輸送船隊前路掃海ハ猶研究ヲ要スルモノ多キヲ以テ前年通續行ス</p> <p>二、夜間設標樣式ノ研究ヲ續ケ其ノ改良ヲ促進ス</p> <p>水雷戰隊戰闘掃海</p> <p>一、水雷戰隊ノ掃海練度ハ猶向上ヲ要スルモ作業多キニ過グル虞アルヲ以テ本年ハ第一水雷戰隊ノミニ課スルコトトシ</p> <p>第二水雷戰隊ニハ爆雷投射戰技ヲ課セントス</p> <p>一、防備隊ニ於ケル夜間水道掃海ニ對シテハ概ネ結論ヲ得タルヲ以テ本年度ハ之ヲ施行セズ普通ノ日施掃海トシテ實施スルニ改メ尙防掃具處分法ヲ加フ</p> <p>二、驅逐隊掃海隊晝間泊地掃海ニ於テ四號掃海具ヲ主用スルコトトス</p> <p>三、驅逐隊掃海隊夜間泊地掃海ヲ敵地(假想)ニテ行フコトトス</p>	<p>各年次戰闘掃海實施規程ニ附屬發布セラレタル主要研究(訓練)項目ヲ表記セバ左ノ如シ</p>

大正十二年	大正十一年	大正十年
<p>一、防備隊戦闘掃海(防備隊)</p> <p>(一) 掃海水道ノ掃海法</p> <p>(二) 拘捉機雷ノ感知法</p> <p>(三) 浮出機雷處分法</p> <p>二、驅逐隊戦闘掃海(在役及驅逐隊)</p> <p>(一) 泊地掃海法</p> <p>(二) 拘捉機雷ノ感知法</p> <p>(三) 浮出機雷ノ處分法</p>	<p>一、防備隊戦闘掃海(各防備隊)</p> <p>(一) 掃海水道ノ掃海法</p> <p>(二) 同一掃海區域ニ對スル掃海作業ノ繼續法</p> <p>二、驅逐隊戦闘掃海(第一豫備驅逐隊)</p> <p>(一) 掃海水道ト掃海面トヨリ成ル所要海面ノ掃海法</p> <p>(二) 同一掃海區域ニ對スル掃海作業ノ繼續法</p> <p>三、二等敷設艇ヲ以テスル研究掃海(横須賀、舞鶴、大湊防備隊)</p> <p>(一) 清掃確度ニ對スル調査</p> <p>(二) 掃海隊形ノ適否</p>	<p>(一) 掃海隊ノ編制及各艦ノ任務</p> <p>二、驅逐隊戦闘掃海(第一豫備驅逐隊)</p> <p>(一) 一個驅逐隊ヲ以テスル所要海面掃海法</p> <p>(二) 掃海隊ノ編制及各艦ノ任務</p>

		大 正 十 三 年	
掃海種別	實施基本部	<p>一、防備隊戰闘掃海(各防備隊)</p> <p>(一) Y形掃海水道ノ掃海法</p> <p>(二) 拘捉機雷ニヨル敷設線ノ判知法</p> <p>(三) 浮流機雷ノ處分法</p> <p>(四) 現有兵力ヲ以テスル防備隊ノ掃海能力</p> <p>二、驅逐隊及掃海隊晝間戰闘掃海(在役掃海隊及在役第一豫備驅逐隊)</p> <p>(一) 艦隊泊地ノ先行掃海法</p> <p>(二) 拘捉機雷ニヨル敷設線ノ判知法</p> <p>(三) 浮流機雷ノ處分法</p> <p>三、驅逐隊及掃海隊夜間戰闘掃海(同右)</p> <p>(一) 夜間前路掃海法</p> <p>(二) 夜間掃海ノ確度</p> <p>(三) 主隊トノ距離並ニ通信連絡法</p> <p>四、水雷戰隊戰闘掃海</p> <p>(一) 艦隊泊地ノ先行掃海法</p> <p>(二) 航究機ノ利用法</p> <p>(三) 掃海部隊ノ編成區分法</p> <p>(四) 掃海面ノ區劃分擔法</p> <p>(五) 掃海具ノ使用選擇法</p>	
項	主要訓練		
主	要		
研	究		
項	目		

大 正 十 四 年

防備隊 戰團掃海	驅逐隊 掃海隊 晝間戰團 掃海	驅逐隊 掃海隊 夜間戰團 掃海
防備隊	鎮守府、要港部所屬 在役驅逐隊及掃海隊	同 右 但シ大掃海具三號ノ ミ搭載ノモノヲ除ク
掃海水道 ノ日施掃 海法	泊地ノ掃海法	
<p>一、一側設標ニヨル逐次掃海法</p> <p>二、逐次掃海ニ於ケル確度並ニ既掃面圖ノ作製法</p> <p>三、適當ナル設標間隔並ニ設標樣式</p> <p>四、實裝浮出機雷ノ處分法</p> <p>五、掃海水道ト機雷極端末間トノ適當ナル距離</p>	<p>大掃海具三號ノミ搭載ノ驅逐隊、掃海隊</p> <p>右以外ノ驅逐隊、掃海隊</p>	<p>陸兵揚陸作戦ニ於テ輸送船隊ニ對スル前路掃海法</p>
	<p>一、略掃法及其ノ確度</p> <p>二、敷設線ノ判知確度</p> <p>三、掃海立標ノ適當ナル標識法</p> <p>四、掃海立標ノ水深及流潮ニ對スル適當ナル索長</p>	<p>一、輸送船隊ニ對スル嚮導法</p> <p>二、掃海具投入時及掃海中輸送船隊、掃海隊間ノ適當ナル距離</p> <p>三、無燈掃海法</p> <p>四、夜間掃海ノ確度</p>
	<p>一、淺海掃海ニ於ケル適當ナル掃海索ノ組合及浮標ノ配列法</p> <p>二、淺海ニ於ケル掃海面ノ區劃分擔及掃海法</p> <p>三、</p> <p>四、前掲ニ同シ</p>	

大 正 十 五 年					
驅逐隊 掃海隊 雷間戰闘 掃海	防備隊 掃海隊 戰闘掃海	防備隊 戰闘掃海	水雷戰隊 戰闘掃海	驅逐隊 在役掃海隊及鎮守府 要港部所屬ノ在役 驅逐隊	第二、第二水雷戰隊
泊地ノ掃 海法	鎮守府所屬防備隊並 ニ掃海隊	要港部所屬防備隊	艦隊泊地 ノ先行掃 海法	一、防備現地ニ於ケル掃海水道ノ適否 二、一側設標ニヨル掃海法 三、掃海水道ト機雷堰端未間トノ適當ナル距離 四、防禦網航門附近ノ掃海法 五、適當ナル設標間隔並ニ設標様式 六、二號掃海ニ於ケル掃海索長ノ最大限度 七、實裝機雷ノ處分法	一、掃海部隊ノ編成區分法 二、掃海面區劃分辦法 三、掃海立標ノ適當ナル標識法 四、大掃海具三號ノ略掃能力並ニ敷設線列知確度
載ノ驅逐隊	一、前掲ノ全部 二、掃海部隊ノ編成區分法 三、掃海面區劃分辦法	一、回頭面狭小ナル泊地ノ略掃法 二、敷設線列知法 三、淺海掃海ニ適應スル掃海深度 四、大掃海具三號ノ掃海確度 五、實裝機雷處分法			

<p>水雷戦隊 掃海隊 戦闘掃海</p>	<p>水雷戦隊 戦闘掃海</p>	<p>驅逐隊 掃海隊 夜間戦闘 掃海</p>	
<p>第一水雷戦隊 第一掃海隊</p>	<p>第二水雷戦隊</p>	<p>右同 但シ大掃海具三號ノ ミ搭載驅逐隊ヲ除ク</p>	
<p>海法</p>	<p>艦隊泊地 ノ先行掃</p>	<p>陸兵揚陸 作戦ニ於 ケル輸送 船隊ニ對 スル前路 掃海法</p>	
<p>八、實裝機雷ノ處分法 七、掃海水道ノ選定法 六、掃海部隊ノ先行時機 五、入泊艦隊ニ對スル水路嚮導(前路掃海)法 四、艦隊入泊法 三、艦隊泊地ノ先行掃海法 二、掃海面區劃分擔法 一、掃海部隊ノ編成區分法</p>		<p>九、二號掃海ニ於ケル掃海索長ノ最大限度 八、掃海完了後(輸送船隊投錨後)ニ於ケル掃海隊ノ行動 七、通信連絡法 六、掃海隊ノ夜間陸岸ニ接近シ得ル距離 五、變針點ノ指示法 四、夜間掃海ノ確度 三、敵地掃海法 二、掃海具投入時及掃海中輸送船隊、掃海隊間ノ適當ナル距離 一、輸送船隊ノ嚮導並ニ續航法</p>	<p>右以外ノ 驅逐隊掃海隊 一、回頭面狭小ナル泊地清掃法 二、淺海ヲ含ム掃海面ノ區劃分擔並ニ掃海法 三、水深ニ適應スル掃海深度ノ選定 四、實裝機雷ノ處分法</p>

昭		和		二		年	
防備隊 戦闘掃海	防備隊	驅逐隊 書間戦闘 掃海	驅逐隊 (掃海隊)	夜間戦闘 掃海	水雷戦隊 戦闘掃海	鎮守府要港部所屬ノ 在役驅逐隊並ニ第二 十一驅逐隊(第一遣 外艦隊及練習任務ノ 驅逐隊ヲ除ク)	在役掃海隊及鎮守府 要港部在役驅逐隊、 並ニ第二十一驅逐隊 (同 右)
一、現地掃海水道ノ夜間掃海法 二、防禦網航門附近ノ清掃法 三、適當ナル設標間隔並ニ設標様式	一、淺海ヲ含ム回頭面狭小ナル艦隊泊地ノ略掃法 二、大掃海具三號ノ掃海確度	右以外ノ驅逐隊	一、上陸作戰ニ於ケル輸送船隊ニ對スル夜間前路掃海法 二、輸送船隊ノ嚮導法 三、通信連絡法	一、泊地ノ夜間掃海法 二、適當ナル設標法並ニ設標様式	第一第二水雷戦隊	一、淺海ヲ含ム回頭面狭小ナル艦隊泊地ノ先行掃海法 二、入泊ノ艦隊ニ對スル水路嚮導(前路掃海)法	

昭和三年			
水雷戦隊 戦闘掃海	驅逐隊 (掃海隊) 夜間戦闘 掃海	驅逐隊 (掃海隊) 戦闘掃海	防備隊 戦闘掃海
第一水雷戦隊	同右、但シ第一豫備掃海隊並ニ大掃海具三號ノミヲ搭スル驅逐隊ヲ除ク 在役掃海隊、第二十驅逐隊	鎮守府要港部所屬ノ在役驅逐隊、掃海隊 第一豫備掃海隊並ニ第二十一驅逐隊 (練習任務ノモノヲ除ク)	防備隊
一、回頭面狭小ナル艦隊泊地ノ先行掃海法 二、入泊艦隊ニ對スル水路嚮導(前路掃海)法	一、艦隊泊地ノ夜間掃海法 二、適當ナル設標様式	右以外ノ驅逐隊、掃海隊 一、區域設標ヲ行ハザル泊地掃海法 二、掃海中ノ設標及其ノ利用法 三、清掃確度 四、機雷處分法	一、掃海水道ノ夜間掃海法 二、防禦網航門附近ノ夜間掃海法 三、適當ナル設標間隔並ニ設標位置 四、機雷處分法



昭和四年					
防備隊 戰團掃海	驅逐隊 掃海隊 晝間戰團 掃海	驅逐隊 掃海隊 夜間戰團 掃海	第一水雷戰隊	水雷艦隊 戰團掃海	第一水雷戰隊
防備隊	第二十五驅逐隊	第一、七、十八、二十一、二十八驅逐隊 第一掃海隊	第六掃海隊	第一水雷戰隊	第一水雷戰隊
一、掃海水道ノ日施掃海法 二、掃海水道ノ認知ヲ困難ナラシムル標識法 三、妨掃具處分法	一、三號掃海ニ依ル回頭面狹小ナル泊地掃海法 二、既掃面圖作製法 三、清掃確度	一、輸送船隊ニ對スル夜間前路掃海法 二、敵襲ニ對スル應急處置法 三、輸送船隊ノ嚮導並ニ錨地進入法	一、夜間敵地ニ於ケル泊地掃海法	一、回頭面狹小ナル艦隊泊地ノ先行掃海法 二、入泊艦隊ニ對スル前路掃海水路嚮導及艦隊ノ入泊法	一、回頭面狹小ナル艦隊泊地ノ先行掃海法 二、入泊艦隊ニ對スル前路掃海水路嚮導及艦隊ノ入泊法

昭和四年戰團掃海實施區分(從來ノ實施規定ニ代レルモノ)左ノ如シ

昭和四年戰團掃海實施區分

掃海		夜間戦闘 掃海隊	驅逐隊	掃海隊	書間戦闘 掃海隊	驅逐隊	防備隊 戦闘掃海	掃海種別
第二十八驅逐隊	第六掃海隊	第一、第七、第十八 第二十一、第二十八驅 逐隊、第一掃海隊	同 右	同 右	第七、第二十一驅逐隊 第一掃海隊	第二十五驅逐隊	防 備 隊	實 施 部 隊
同	同	同 右	同 右	同 右	同 右	同 右	前記ノ通	主要研究項目
一、掃海面積ハ十平方杆(一野艦ノ場合ハ五平方杆)以上トス	一、所屬長官ノ定ムル適宜ノ艦船ニ隻以上ヲ以テ輸送 船隊ニ擬ス 二、掃海航路ハ十五哩以上トス 三、哨戒部隊ヲ配備セル假想敵地ニ以テ掩護部隊ヲ配 シ施行スルヲ例トス	一、所屬長官ノ定ムル適宜ノ艦船ニ隻以上ヲ以テ輸送 船隊ニ擬ス 二、掃海面積ヲ十二平方杆以上トス 三、掃海面ハ成ルベク多ク十二米以内ノ水深ヲ含ムモ ノトス	一、四號掃海具ヲ主用スルモノトス 二、掃海面積ヲ十二平方杆以上トス 三、掃海面ハ成ルベク多ク十二米以内ノ水深ヲ含ムモ ノトス	一、掃海面積ハ十二平方杆以上トス 二、掃海面ハ成ルベク多ク十二米以内ノ水深ヲ含ムモ ノトス	一、所要ノ標識ハ掃海開始前之ヲ設置スルモノトス			記 事



備考	水雷戦隊 戦闘掃海
一、本表ニ掲グルモノノ外必要ナル研究項目ハ所屬長官ノ定ムル處ニ依ル 二、敷設機雷ハ三、四號(浮量約八〇斤)トシ圓錐形繫維器ヲ使用スルモノトス	第一水雷戦隊
	同右
	入泊艦隊ハ防雷航行ヲ行フヲ例トス